

# 第1・2学年 国語科学習指導案

指導者 教諭 堀田 浩一

## 研究主題とのかかわり

児童の興味・関心を生かした学習活動を工夫することで、自分たちで学習を進めながら、自分から進んで課題に取り組むことができるようにする。

- 1 単元名 1年 なにが どう するのかを よもう (本時8 / 10)  
教材名 『たねのたび』

## 2 単元設定の理由

本学級の1年生(男子4名、女子1名)は、これまでに「だいじなたまご」で説明文と出会い、挿絵を手がかりに大事な言葉を見付けたり、絵や言葉で簡単にまとめたりするなど、文を正しく読み取る学習をした。さらに、まとめた絵を使って、簡単なクイズを出し合うなどわかったことを伝え合う活動にも、たいへん積極的に取り組んだ。

また、国語科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

|    |  |
|----|--|
| A児 | 簡単な文章で、読み取ったことを絵や表などで自分なりにまとめることができる。自分が思ったことやわかったことを進んで発表できるようになりつつある。                                      |
| B児 | 文章の中から大切な言葉を見付け、読み取ったことを進んで発表しようとすることができる。生活科での「どんぐり拾い」を楽しみにしているなど、自然に親しむ活動を好む。                              |
| C児 | 少し時間がかかるが一つ一つの場面ごとに、簡単に絵や言葉でまとめることができる。自分の思いや考えを発表するときに不安になって、なかなか言い出せないことがあるが、待てば最後まではっきりと言うことができるようになってきた。 |
| D児 | 進んで物語や説明文を読み、大まかなあらすじをすぐにつかむことができる。まとめたことを自分から発表できるようになりつつある。  |
| E児 | 言葉の意味のまとまりに気を付けて音読することが苦手だが、進んで読み取ったことを発表したり、わかったことを工夫して絵でまとめたりすることができる。                                     |

本単元では、大事な言葉を見付け、問いかけや呼びかけの文を手がかりに、内容の大体を読み取るなど「何がどうしたかをきちんと読む」ことの大切さに気付かせることができる。また、「何がどうしたか」を情景を思い浮かべながら説明でき、さらに「読み方」を身に付け、人への伝え方についても考えさせることができる。この単元を通して「読み取ること」と「読むこと」をしっかり身に付けさせることができると考える。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

・種取りの経験や教科書の写真から「たね」「たび」などについて想像をふくらませ、読み取りへの意欲が高まるようにする。

・絵を描いてまとめたり、「種の旅クイズ」をつくったりすることで、3つの種の類似点や相違点に気付くなど、読み取りがさらに深まるようにする。

・わかったことを伝えたいという気持ちを大切に、目的と相手をはっきりさせることで、伝えやすさの工夫について考えることができるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

・基本的な話し方・聞き方を身に付け、話し合いができるように「発表の仕方・話の聞き方」を活用したり、発表の自己評価をしたりする。

・隣学年と一緒に教室で学ぶことでリーダー学習に慣れさせるとともに、自分たちで学習を進めることができるように単純化した学び方〔リーダー学習〕の手順を全員に持たせる。

・入門期の1年生でも、間接指導時に一人学びができるように、ワークシートを活用して読み取ったことをまとめられるようにする。

## 3 目標

- 進んで説明文を読み、類似点や相違点を見付けようとする。
- 友達にわかるように、事柄の順序を考えて説明したり、友達の発表の大事なことを聞き取ったりする。
- 読み取ってわかったことを絵や表にまとめる。
- 何がどうしたかを考えながら、種の旅の仕方について読み取る。

#### 4 評価規準

| 観 点          | 評 価 規 準   |
|--------------|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・比較した文や説明文に興味をもち、進んで読もうとする。                       |
| 話す・聞く能力      | ・絵や表で、わかりやすく説明する。<br>・大事なことを聞き取る。                 |
| 書く能力         | ・絵や表を使って、類似点や相違点をまとめる。                            |
| 読む能力         | ・大切な言葉を見付け、内容を読み取る。<br>・意味ごとに、語や文をひとまとまりにして音読できる。 |
| 言語事項         | ・姿勢や口形などに気を付けて、はっきりと話す。                           |

#### 5 指導計画及び評価 (総時数 10 時間)

|  | 学習活動・内容  | 評価の視点  | 教師の支援   |
|--|--|--|---|
| 第一次                                    | 1 ○題名から内容を想像し、学習の見通しと意欲をもつ。<br>・「たね」「たび」           | (関)説明文に興味をもち、進んで種の旅の様子について想像しようとしている。                                | ・経験したことや身の回りのことを話題にすることで、想像をふくらませ説明文の内容について興味をもてるようにする。<br>(A児、B児、D児)   |
| 第二次                                    | 2 ○全文を読み、話の大体をとらえる。<br>・3つのたねの旅<br>・新出漢字<br>・語句の学習 | (読)説明文の中から重要な言葉を見付け、種がどのように旅をするかなどを読み取る。<br>(書)それぞれの種の旅について絵や表でまとめる。 | ・挿絵について話したり、1ページごとに音読したりして、話のまとまりを意識させる。<br>(C児、D児)   |
|  | 3 ○3つの種の旅について読み取り、わかったことを絵で表す。                     | (読)それぞれの種の似ているところ、違うところに気付く。   | ・聞き慣れない語句の意味についてわかりやすく説明し、語彙を豊かにする。(B児、C児、E児)<br>・挿絵や説明文から気付いたこと、わかったことを何でも絵に描くことで意欲を高め、その中から大切な言葉を選んでまとめられるようにする。<br>(C児、D児、E児)              |
|  | 4 ・種の名前、種の場所、                                      |  |   |
|  | 5 旅の服や仕方、理由など                                      |  |   |
| 6 ○3つの種の旅の仕方<br>7 について表にまとめる。<br>・旅の目的 |  |  |   |
| 第三次                                    | 8 ○わかったことを楽しく伝える。<br>・わかりやすい発表                     | (関)まとめたことから、進んでクイズをつくり、わかりやすいように工夫しようとしている。                          | ・1年生でのクイズ大会を思い出し、共に学習したことのある2年生を相手にすることで、わかったことを伝えたいという意欲を高め、自信をもって発表できるようにする。(B児、D児)<br>・振り返りカードを使い、基本的な発表の仕方と話の聞き方が身に付くように意識させる。<br>(D児、E児) |
|  | 9 ○他の種の旅について調べ、まとめる。                               | (話・聞)相手にわかりやすく話し、大事なことを聞き取る。   |   |
|  | 10 ・旅の仕方が似ている種と違っている種                              | (書)旅の仕組みについて、項目ごとにまとめる。  |   |

## 研究主題とのかかわり

地域素材の活用や伝え合う場を工夫することで、課題に対する見通しをはっきりとさせて、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

1 単元名 2年 読んでわかったことを知らせ合おう（本時15／18）

教材名 『どんぐりとどうぶつたち』『どんぐりやどうぶつたちをしょうかいしよう』

## 2 単元設定の理由

本学級の2年生（女子5人）は、学習態度がまじめで課題解決のために、集中して取り組むことができる。リーダーカードに沿って、学習を進めることもできるようになってきた。

また、国語科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

|    |  |
|----|--|
| A児 | 課題に対して集中して取り組み、時間は少しかかってもじっくり考えて文章の内容を読み取ることができる。人の話を落ち着いて聞く態度も身に付いている。    |
| B児 | 課題に対して意欲的で、文章の読み取りも速くできる。はっきりとした大きな声で発表したり、気持ちを込めて音読したりすることもできる。           |
| C児 | 文章の正しい読み取りができ、友達の発表も最後まできちんと聞くことができる。自分が思ったことや考えたことを、みんなの前で話すのがやや苦手である。    |
| D児 | 何をすればよいのか課題を把握したり、文章の内容を読み取ったりするのに少し時間がかかる。自分が書いた文章は、正しく読んで発表することができる。     |
| E児 | 課題に対して進んで取り組み、文章の読み取りも速くできる。発表もはっきりとした大きな声で発表することができるが、話を最後まで聞くことがやや苦手である。 |

本単元を二つの教材で構成した。『どんぐりとどうぶつたち』は、上巻で学んだ「読むこと」の基礎・基本を活用して、教材文で説明している内容を叙述の順序に沿って、正確に読み取る力を高めることをねらう。『どんぐりやどうぶつたちをしょうかいしよう』では、教材文を読んで、初めて知ったことや驚いたこと、考えたことなどをもとにしてクイズをつくり、その答えをもとに話し合うことで、読み取った内容をさらに深め、発展させることをねらう。さらに、教材文での読み取りの学習を生かして、自分が興味のある生きものについて本や図鑑を読んで調べ、わかったことをまとめて発表したり、得た情報をクイズとして活用したりする。このように、児童が叙述の順序に沿って正確に読み取る力、必要な情報を集めてまとめる力、受け取った情報を表現する力を身に付けることに適した単元である。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

・教材文を使ってクイズづくりをすることや、1年生にクイズの紹介をすることによって、教材文への関心・意欲を高めることができるようにする。

・季節や時間の経過を表す言葉、問題提示文、挿絵などを手がかりにすることによって、教材文を詳しく読み取ることができるようにする。

・教材文から読み取った発見や感動をワークシートにまとめることによって、クイズをつくる時の資料として活用することができるようにする。

・読んでわかったことを知らせることができたか、友達の発表を聞き取ることができたかを振り返りカードを使うことによって、自己評価ができるようにする。

また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。

・つなぎ合いの場面では、話し手も聞き手も「発表の仕方・話の聞き方」を使うことによって、ねらいに沿った話し合いができるようにする。

・発展的な学習の教材として地域素材のなぎさ水族館でふれ合った海の生きものを活用することによって興味・関心を持続させ、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

## 3 目標

- みずならと動物たちとの関係や説明文の文章展開に、興味をもって読む。
- 順序を表す言葉を手がかりにして、説明文を詳しく読み取る。
- 読んで初めて知ったことや驚いたことなどを、クイズにする。
- 伝えたい事柄を相手にわかりやすく話したり、大事な言葉を正確に聞き取ったりする。
- 順序を表す言葉や、指示語、文末表現に気を付けて読む。

#### 4 評価規準

| 観 点                 | 評 価 規 準   |
|---------------------|---|
| 国語への関心・意欲・態度        | ・書かれた文章に興味をもち、進んで読んだり調べたりする。                      |
| 話す・聞く能力             | ・読み取ったことをわかりやすく話したり、友達の発表をしっかり聞いたりする。             |
| 書く能力                | ・文章から読み取ったことを、わかりやすくまとめて書く。                       |
| 読む能力                | ・みずならと動物たちの様子について、季節や時間を表す言葉を手がかりにして読み取る。         |
| 言語についての知識・理解<br>・技能 | ・順序を表す言葉、指示語、文末表現に気を付けて読む。<br>・適切な速さや声の強弱を工夫して話す。 |

#### 5 指導計画及び評価 (総時数 18 時間)

|             | 学習活動・内容  | 評価の視点  | 教師の支援  |
|-------------|--|--|--|
| 第<br>一<br>次 | 1<br>・<br>2<br>○教材文を読んで感想を話し合い、学習の見通しをもつ。<br>・初めて知ったことや驚いたこと<br>・新出漢字と語句の学習            | (関)興味・関心をもって教材文を詳しく読み取る。<br>(言)意味や読みのわからない語句について理解する。              | ・全文を読むのに時間がかかり、最後まで集中して読めない児童のために、教材文の範読を聞かせ、大まかな内容をつかむことができるようにする。(D児・E児) |
|             | 3<br>・<br>4<br>○全文を音読して、大まかな内容をとらえる。<br>・読みの課題の設定                                      | (関)教材文を読み取って、わかったことを伝えようとする意欲をもつ。                                  | ・読み取ったことを整理させるために、みずなら、どんぐり、動物に分け、短冊に読み取ったことを書くようにする。(A児・C児)               |
|             | 5<br>○段落(①~④)を読み取る。<br>・夏から秋のみずなら、どんぐり、動物の様子   | (読)季節ごとに説明されている事柄を、順序を考えながら読む。                                     |  |
| 第<br>二<br>次 | 6<br>○段落(⑤~⑨)を読み取る。<br>・冬から春のみずなら、どんぐり、動物の様子   | (書)叙述に沿って読み取ったことを書く。   | ・読み取りを深めるために、順序や季節、経過などを表す言葉に注意して、読み取るように助言する。(B児)                         |
|             | 7<br>○段落(⑩~⑮)を読み取る。<br>・春のどんぐりの様子  | (話・聞)学習したことをまとめて相手にわかるように話したり、友達の発表に興味をもって聞いたりする。                  | ・発表が苦手な児童のためにワークシートを用意し、それぞれの季節をまとめて書き出し、発表するようにする。(C児)                    |
|             | 8<br>○全文を通読し、題名について考える。<br>・みずならと動物の関係   |  |  |
|             | 9<br>○教材文から『どんぐりやどうぶつたちのひみつ』クイズをつくる。   | (話・聞)クイズを友達に伝えたり、聞き取った答えを正しく書いたりする。                                | ・クイズづくりに迷った児童にはこれまでのワークシートに書いたことを参考にできるように助言する。(全児)                        |
|             | 10<br>○『どんぐりやどうぶつたちのひみつ』クイズを出し合い、読み取りを深め合う。  | (読)(書)教材文から読み取ったことをクイズの問題と答えにして、わかりやすく書く。                          |  |
|             | 11   |  |  |
|             | 12   |  |  |
| 第<br>三<br>次 | 13<br>・<br>14<br>○興味をもった海の生きものについて調べる。<br>・体の特徴、住んでいるところ、えさの採り方、卵の産み方、子どもの育て方、身の守り方 など | (関)自分の調べたい海の生きものを図鑑や本を利用して調べる。<br>(読)(書)自分が調べた海の生きものをわかりやすくまとめて書く。 | ・調べて書くことが苦手な児童のために、海の生きものの体の様子、住む場所、えさの採り方など、調べる観点を書いたヒントカードを用いる。(A児・D児)   |
|             | 15<br>○興味のある海の生きものについて発表する。<br>・自分が調べた海の生きものの発表  | (話・聞)自分が調べた海の生きものをわかりやすく発表したり、友達の調べたことを最後まで聞き取ったりする。               | ・発表することが苦手な児童のために、調べたことの中から、知らせたいことを二つ選んで、基本話型に沿って発表メモを書くように助言する。(C児)      |
|             | 16<br>○興味のある海の生きもののクイズをつくる。<br>・自分が調べた海の生きもののクイズづくり                                    | (書)海の生きものの特徴をわかりやすくまとめてクイズにする。                                     |  |
|             | 17<br>○「海の生きもののひみつ」クイズをまとめて「クイズ集」を作成し、学習のまとめをする。                                       | (書)(関)「クイズ集」づくりに意欲的に取り組む。  | ・正確に聞き取ることが苦手な児童には、わかったことや初めて知ったことなどを基本話型を使って伝えるようにする。(E児)                 |
|             | 18<br>・クイズの発表とまとめ  | (関)学習を振り返り、新しく知ったことや面白かったことについて発表する。                               |  |

6 本時案 (第四次 8/10)

- (1) 主眼 種の旅の仕方などをクイズにして、わかりやすく2年生に伝えることができる。  
 (2) 準備 「たねのたび」についてまとめた発表用画用紙、クイズ作りのためのワークシート、振り返りカード  
 (3) 学習過程

|  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 前時の学習  | 絵や表で「たねのたび」についてまとめた。   |   |   |
| 流れ   | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L)   | 学習活動・内容   | 調 |
| つかむ<br>／<br>かんがえる<br>／<br>つながり<br>あう<br>／<br>まとめる                        | 「たねのたびクイズ」をつくって、2ねんせいにはっぴょうしよう。  |   |   |
|  | L 課題を読みましょう。<br>・種の旅の様子を思い出させることで、内容とクイズづくりで大切な言葉を確認させる。   | 1 本時の課題を確認する。<br>・クイズを出す相手(2年生)<br>・クイズの内容と作り方  |   |
|  | L 絵や表を見て、クイズをつくりましょう。<br>・全員がクイズづくりに取り組めるようにわかったことや大切な言葉などを書き込むワークシートを用意する。<br>・絵を描いたりヒントを考えたりして、楽しいクイズになるように工夫させる。<br>・2年生の「どんぐりとどうぶつたちのクイズ」を想起させ、意欲を高める。<br>(評価イ ワークシート) | 2 まとめた内容からクイズをつくる。<br>・種の名前<br>・種のある場所<br>・旅をしやすい服<br>・旅の仕方<br>・旅の理由<br>・旅の目的   |   |
|  | L クイズの発表をしましょう。<br>・初めに「発表の仕方」と「話の聞き方」を確認することで、伝わりやすい話し方と聞き方を意識させる。<br><br>・必ず質問や感想を言うことで、大事なことを聞き逃さないように、一人ひとりの能力に応じた声かけをする。<br>(評価ア 発表)                                  | 3 発表の仕方と話の聞き方を確かめて、2年生にクイズを出す。<br>・発表の仕方<br>(大きな声ではっきりと発表する)<br>(聞き手の方を見て話す)<br>・話の聞き方<br>(話す人の方を見る)<br>(わからないことは質問をする)<br>・友達の発表のよいところ |   |
| L 今日の学習の感想を書いてください。<br>・発表の仕方や話の聞き方について自己評価したことに対して、一人ひとりの学習の取組を評価してまわる。 | 4 本時の学習を振り返る。<br>・発表の仕方と話の聞き方について<br>・クイズの感想   |   |   |
| 次時の学習  | 他の種について調べ、まとめる。  |   |   |

(4) 評価

- ア (話・聞): 読み取ってわかったことを伝えようと、進んでクイズをつくる。  
 イ (読・書): 声の大きさや速さなどに気を付けて発表し、大事なことを聞き取る。

6 本時案 (第三次 15/18)

- (1) 主眼 自分が興味をもって調べた海の生きものについて、わかりやすく説明することができる。  
 (2) 準備 発表の仕方のサンプルを書いた紙(黒板掲示用)、発表メモを書いたワークシート、振り返りカード、学習の足跡(黒板掲示用)  
 (3) 学習過程

|   |   |   |    |
|---|---|---|----|
| 前時の学習   | 興味をもった海の生きものについて、本や図鑑で調べてわかったことをワークシートに書いた。   |   |    |
| 調   | 学習活動・内容   | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L)  | 流れ |
| かんがえる<br>／<br>つながり<br>あう<br>／<br>まとめる<br>／<br>つかむ | 自分がしらべた海の生きものについて、みんなに教えよう。   |   |    |
|   | 1 自分が調べた海の生きものについて発表の練習をする。<br>・体の特徴や住んでいるところ<br>・えさの採り方や卵の産み方<br>・子どもの育て方や身の守り方 など | L 発表メモを使って、発表の練習をしましょう。<br>・発表の仕方の話型や学習の足跡(話す内容や発表の仕方のポイント)を黒板に掲示することによって、それらを意識して発表の練習ができるようにする。<br>(評価ア ワークシート)   |    |
|   | 2 自分が調べた海の生きものについてわかったことを説明する。<br>・友達に教えたこと<br>・友達の発表でわかったこと、初めて知ったこと、驚いたこと など      | L 海の生きものについて説明をしましょう。<br>・発表者は発表メモに沿い、絵や写真などを使って、自分の調べた海の生きものについて説明ができるようにする。<br>・発表の後でわかったことや初めて知ったことなどを発表者に伝えるために、聞き手には、友達の発表を最後まで聞き取れることを意識させるようにする。<br>(評価イ 発表) |    |
|   | 3 本時の学習を振り返る。<br>・発表の仕方や聞き方についての振り返り  | L 今日の学習の振り返りをしましょう。<br>・伝えたいことをわかりやすく話せたか、友達の話を正確に聞き取れたかを観点とした振り返りカードを用意し、自己評価ができるようにする。  |    |
|   | 4 1年生のクイズの発表を聞き、わかったことや感想を発表する。<br>・既習のクイズづくりの振り返り                                  | ・1年生のクイズに答えたり、感想を伝えたりして、次時の海の生きもののクイズづくりへの意欲付けを図る。  |    |
| 海の生きもののクイズをつくろう。                                  |   | L 新しい課題を読んでください。<br>・1年生にわかりやすい海の生きもののクイズをつくることを予告する。   |    |
| 5 次時の学習課題を確認する。<br>・次時の課題把握と見直し                   |   |   |    |
| 次時の学習   | 興味をもった海の生きもののクイズをつくる。   |   |    |

(4) 評価

- ア (関): 自分が調べた海の生きものについて、意欲的に発表の練習をする。  
 イ (話・聞): 自分が調べた海の生きものについて、わかりやすく発表したり、友達が調べた海の生きものについて、最後まで聞き取ったりする。

# 第1・2学年 算数科学習指導案

指導者 教諭 堀 田 浩 一

## 研究主題とのかかわり

児童の実態に即した学習素材を活用してつなぎ合いの場を楽しくすることで、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

- 1 単元名 1年 100までの かず (本時9 / 11)  
教材名 かずのあらわしかた 100までのかず 学習のまとめ
- 2 単元設定の理由

本学級の1年生(男子4名、女子1名)は、自分なりに解決しようと学習に前向きに取り組み、自分の考えを進んで発表したり、質問したりすることができるようになってきた。リーダーカードを使って、リーダー学習も自分たちで進めることができるようになった。

また、算数科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

|     |   |
|-----|---|
| A 児 | 課題把握が正確で早く、学習に真面目に取り組むことができる。数の合成や分解を確かめるための具体物の操作に時間がかかる。                |
| B 児 | 正しく課題を把握し、学習に意欲的に取り組むことができる。20までの数の大小関係や順序、系列などを具体物を使って説明することができる。        |
| C 児 | 課題の把握に時間がかかるが、課題解決に真面目に取り組む、自分なりの考えをもつことができる。数の合成や分解に時間がかかる。              |
| D 児 | 学習の準備や課題を把握するのに時間がかかるが、学習に真面目に取り組む事ができる。念頭で、20までの数を10のまとまりといくつに分解し、計算できる。 |
| E 児 | 20までの数を唱えたり、表記したりすることができるが、20までの数の合成や分解に時間がかかる。たくさんの練習問題を、集中して最後までするのが苦手。 |

本単元は、数の構成の基礎基本を育てるために、10のまとまりに整理して数える良さに気づかせ、身に付けることをねらいとしている。これまでに、20までの数では、10のまとまりといくつという合成や分解をし、繰り上がりの足し算や繰り下がりの引き算で、十進構造の良さに気づき、計算することができた。ここでは、位取りに目を向け、具体物と十の位、一の位を関連づけて説明したり、数字で表したりする力を身に付けることもねらっている。学習した数の大小や順序などを使ってクイズを作り、数直線や位取り表と関連づけて説明したり、クイズの答えを具体物を使って確かめたりすることで、数の構成についてさらに理解を深め、発展させることができる。このように、数を多面的に見る力、具体物を使って説明する力、友だちの考えを聞く力を身に付けることに適した単元である。

そこで、指導にあたっては次の点に留意したい。

- ・朝顔の種数えなど学習素材を生活の中から取り上げることで、自ら考えたい、調べたいと思う意欲をかき立てるようにする。
- ・十進位取り記数法の概念が自然に身に付くように、いろいろな具体物を、10のまとまりを作って数える操作を何度も繰り返す。
- ・クイズ作りが単純な数字の操作にならないように、具体物を使って10のまとまりや位取りと関連づけながら答えの確かめをする。
- ・間接指導時に一人学びができるように、ワークシートや数の表し方を載せたヒントカードを用意する。
- ・一人ひとりにリーダーカードを持たせて、自分たちで学習を進められるようにする。

## 3 目標

- 10のまとまりがどうすればうまく作れるかの見通しを持って、進んで数えようとしている。
- 10のかたまりの作り方を工夫し、より分かりやすく数える方法を考えることができる。
- 100までの数を正しく数えたり、数字で表したりよんだりすることができる。
- 100までの数のよみ方、表し方、大小関係や順序、系列が、数直線や位取りと関連づけてわかる。

## 4 評価規準

| 観 点          | 評 価 規 準  |
|--------------|--|
| 算数への関心・意欲・態度 | ・10ずつまとめる良さが分かり、身の回りの物の個数を10のまとまりを作って、数えたり表そうとしたりしている。 |
| 数学的な考え方      | ・多くの数を数えるとき、10ずつのまとまりを作って考えることができる。                    |
| 表現・処理        | ・100までの数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。                      |
| 知識・理解        | ・100までの数のよみ方、表し方、大小、順序、系列を理解している。                      |

5 指導計画及び評価 (総時数 1 1 時間)

|   | 学習活動・内容   | 評価の観点   | 教師の支援   |
|---|---|---|---|
| 第一次   | 1<br>2<br>○朝顔の種を使って、<br>2 位数のいろいろな<br>数え方を考える。<br>・10のまとまり              | (関)進んでいろいろな数え<br>方を考えようとしている。<br>(考)10 ずつのまとまりを<br>つくって数えることが<br>できる。       | ・いろいろな数え方を比べて数え<br>やすいのは、10 ずつまとめる<br>ことだと気づくようにする。<br>(A児、C児、D児、E児)                                  |
|   | 3<br>○数えた種の個数を数<br>字で書いたりよんだ<br>りする。<br>・十の位、一の位                        | (知)2 位数のよみ方、か<br>き方を理解できる。<br>(表)正確に数えたり、位<br>取り表を使って数字<br>で表すことができる。       | ・位取り表に具体物を並べたり、<br>かいたりして、位のしくみと正<br>しいかき方を理解できるように<br>する。<br>(C児、E児)                                 |
|   | 4<br>○数字を見たり聞いたりして、その数だけ<br>種や積み木を並べ<br>る。                              | (表)10 ずつのまとまり<br>をつくって並べること<br>ができる。  | ・積み木を並べるとき、10 ずつま<br>とめると、後で確かめをする<br>ときにも正確に早くできると気づ<br>かせる。(C児、D児、E児)                               |
|   | 5<br>○2 位数を数字でかい<br>たり、絵で表したり<br>する。<br>・何十と何<br>・10が▲で1が△<br>・何十は10が□こ | (関)いろいろな表現を知<br>り、進んでかこうと<br>する。<br>(知)2 位数の数の構成を<br>理解することができる。            | ・位取り表と半具体物を使って、2<br>位数を説明することで、いろい<br>ろな数の表し方を理解できるよ<br>うにする。<br>(全員)                                 |
|   | 第二次   | 6<br>○100までの数を唱<br>えたり、絵や数字で<br>かいたりする。<br>・10 ずつ10こ<br>・99より1大きい数          | (知)10 が 10 個で 100、99<br>より 1 大きい数は 100<br>であることを理解でき<br>る。  |
| 7<br>○100までの数カー<br>ドを並べて、数表の<br>きまりを調べる。<br>・十の位で同じ数が縦<br>に並んでいる。など |   | (関)進んで数カードを作<br>り、並べようとして<br>る。<br>(表)0 から 100 までの数<br>を正しくよみ、かく<br>ことができる。 | ・一の位や十の位が同じ数のカード<br>や一の位と十の位を足した数が同<br>じカードなどを集めて、並び方の<br>規則性に気づくようにする。<br>(A児、C児、D児)                 |
| 8<br>○数直線で数の大小、<br>順序、系列を調べる。<br>・◆より■大きい数<br>・2とび、5とびなど            |   | (考)数の大小、順序、系<br>列について調べること<br>ができる。   | ・数系列がいくつずつ大きくなって<br>いるかななどを、双六などを使って<br>気づかせる。(C児、D児、E児)  |
| 9<br>本時<br>○「かずあてクイズ」<br>を考える。<br>・▽と◇を合わせた数<br>などいろいろな表し<br>方      |   | (関)2 位数のいろいろな<br>表し方を考え、進ん<br>で発表しようとして<br>いる。<br>(表)絵や文章で説明する<br>ことができる。   | ・ワークシートを使って、進んでク<br>イズを作れるようにする。(E児)<br>・□に数字を記入できるヒントカ<br>ードを用意し、いろいろな表し<br>方を考えられるようにする。<br>(C児、E児) |
| 10<br>○身近な100までの<br>数を探す。   |   | (関)進んで2 位数を探そう<br>としている。  | ・挿絵に印をつけたりノートにか<br>いたりして、進んで見つけられ<br>るようにする。(C児)  |
| 第三次   | 11<br>○練習問題をする。<br>・たしかめよう<br>・とりくんでみよう                                 | (知)100 までの数の読み<br>方、表し方、大小、順<br>序、系列を理解してい<br>る。                            | ・つまずきを見つけ、補充的な学<br>習をする。<br>(C児、D児、E児)  |

6 本時案 (第二次 9 / 1 1)

(1) 主眼 十進位取りや 10 のまとまりを使って 2 位数の表し方を考え、一つの数でもいろいろな表現があることに気づき、具体物と関連づけて説明することができる。

(2) 準備 位取り表、数直線、双六、ヒントカード、ワークシート、振り返りカード

(3) 学習過程

|   |  |   |    |
|---|--|---|----|
| 前時の学習   |  | 100 までの数の大小、順序、系列を通直線などで調べた。  |    |
| 流れ  | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L)   | 学習活動・内容   | 直間 |
| つかむ／かかんがえる／つなぎあう／まとめる   | L 課題を読みましょう。<br>・クイズの作り方が分かるようにワークシートを用意する。  | 1 本時の課題を確認する。<br>・クイズの作り方   |    |
|   | 『かずあてクイズ』を作って、発表しよう。   |   |    |
|   | L 『かずあてクイズ』を作りましょう。<br>・ブロックや位取り表の絵をのせたヒントカードを用意して、「あわせた」数という表し方や位取り記数法の表し方を考えることができるようにする。<br>・数の大小や順序を使った表し方を考えられるように、数直線や双六を用意する。<br>(評価ア ワークシート) | 2 位取り表や数直線を使って一つの 2 位数のいろいろな表し方を考える。<br>・数の大小関係や順序、合成や分解などを使った表し方<br>・●▼は十の位が●、一の位が?の数<br>・●▼は 10 を? こと、ばらを▼こあつめた数<br>・●▼は? と●0 をあわせた数 など |    |
| L 『かずあてクイズ』を発表しましょう。<br>・位取り表や数直線を使って、クイズの答えを確かめることで、具体的に数の構成を理解できるようにする。<br>(評価ア・イ 発表) | 3 『かずあてクイズ』を発表し、答える。<br>・数の大小や順序などと、数直線や位取り表との関連づけ   |   |    |
| L 今日の学習の振り返りをしましょう。<br>・項目を作って具体的に振り返ることができるようにする。                                      | 4 本時の学習を振り返る。<br>・位取りなどを使ったいろいろな表し方  |   |    |
| 次時の学習   |  | 身の回りにあるいろいろな 2 位数の数を見つける。   |    |

(4) 評価

ア (関) : 進んで『かずあてクイズ』を作ったり、答えたりすることができる。

イ (知) : 2 位数の表し方、大小などについて、数直線や位取りと関連づけて説明できる。



# 100までの かず

かくしゅうの けいかく

- ① あさがおのたねを かぞえましょう。
- ② よくわかる かぞえかたを かんがえましょう。
- ③ なんこあるかを すうじでかいたり、よんだりしましょう。
- ④ すうじのかずだけ あさがおのたねを ならべましょう。
- ⑤ えとことばをつかって、いろいろなあらわしかたの かずをかきましょう。
- ⑥ 100はどんなかずか しらべましょう。

- ⑦ 100までのカードをならべて、かずあてをしましょう。
- ⑧ かずのせんでならびかたやどちらが大きいかをしらべましょう。
- ⑨ かずあてクイズをつくってはっぴょうしよう。
- ⑩ 100までのすうじをさがしましょう。
- ⑪ れんしゅうもんだいをしましよう。

100までの かず つくりかた  
1年 名まえ

---

◆かずあてクイズを **76** でつくってみよう。

★76は **?** と **6** をあわせた かずです。

**?** は、いくつでしょう。

★76は 10を **7** つと、ばらを **?** つ  
あわせた かずです。

**?** は、いくつでしょう。

★76は 十のくらいが **?** で 一のくらいが  
**6** の かずです。

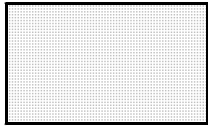
**?** は、いくつでしょう。

100までの かず かずあてクイズ

1年 名まえ

---

◆かずあてクイズを  につくってみよう。



は、

?は、いくつでしょう。

せいがい

◆えで こたえを せつめいしましょう。

## 100までの かず かずあてクイズ

やくそく

①一つの かずについて かんがえましょう。

②ぜんぶ ちがうクイズを つくりましょう。

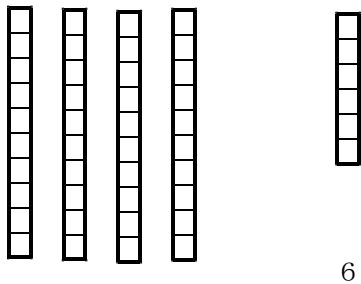
③こたえの せつめいも かんがえましょう。

100までの かず ヒントカード  
1年 名まえ

---

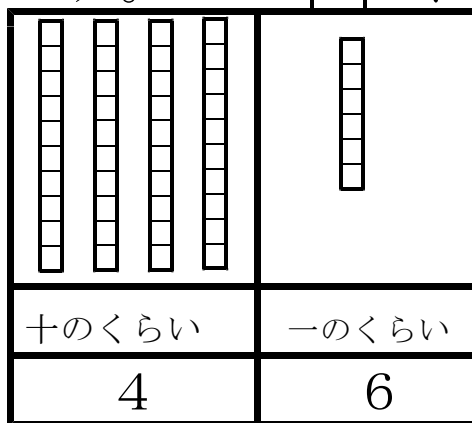
①かずあてクイズを **46** でつくってみよう。

★46は 10を**4**つと、ばらを**?**つを あわせ  
た かずです。 **?**は、いくつでしょう。



10と10と10と10

★46は 十のくらいが**?**、一のくらいが**6**の  
かずです。 **?**は、いくつでしょう。



★46は **40** より **?** おおきい かずです。  
**?**は、いくつでしょう。



★46は  $\boxed{?}$ と $\boxed{6}$ を あわせた かずです。  
 $\boxed{?}$ は、いくつでしょう。

★46は  $\boxed{50}$ より  $\boxed{?}$ ちいさい かずです。  
 $\boxed{?}$ は、いくつでしょう。

★46は  $\boxed{?}$ から  $\boxed{4}$ もどった かずです。  
 $\boxed{?}$ は、いくつでしょう。

★46は  $\boxed{30}$ から  $\boxed{?}$ すすんだ かずです。  
 $\boxed{?}$ は、いくつでしょう。

100までの かず ふりかえりカード  
1年 名まえ

①きょうの 学しゅうを ふりかえろう。

| 学しゅうしたこと                               | ◎・○・△ |
|--|-------|
| ・かずあてクイズを すすんで つくる<br>ことができたか。         | ◎ ○ △ |
| ・いろいろな かずあてクイズを つくる<br>ことができたか。        | ◎ ○ △ |
| ・ともだちが つくった クイズに すす<br>んで こたえることができたか。 | ◎ ○ △ |
| ・しつもんや かんそうを すすんで い<br>うことができたか。       | ◎ ○ △ |

②きょうの 学しゅうで おもったことを かこう。

-----

-----

-----

-----

-----

-----



# リーダー学しゅう

1 じゅんびは  
いいですか。



2 きょうの かだいを  
よみましょう。

3 『かずあてクイズ』を  
つくりましょう。  
わからない人は、ヒント  
カードをもらいましょう。

4 『かずあてクイズ』を  
はっぴょうしましょう。

5 学しゅうの ふりかえ  
りを しましょう。



## 研究主題とのかかわり

学習素材の活用の仕方を工夫することで、課題に対する見通しをはっきりとさせて、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

- 1 単元名 2年 考えてみよう(2) (本時2/6)  
教材名 たすのかな ひくのかな(1) たすのかな ひくのかな(2)

## 2 単元設定の理由

本学級の2年生(女子5人)は、学習態度がまじめで課題解決のために、集中して取り組むことができる。リーダーカードに沿って、学習を進めることもできるようになってきた。また、算数科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

|    |  |
|----|--|
| A児 | 時間は少しかかってもじっくり問題文を読み取り、その場に応じた式を立てて計算することができる。たし算とひき算の計算は、筆算で正確に解くことができる。  |
| B児 | たし算とひき算の違いを正しく理解しているので、問題文をよく読んで、たし算やひき算の式を立てて、筆算で速く正確に答えを求めることができる。       |
| C児 | 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算を筆算でミスなく確実に計算することができる。文章題もよく読んで、速く正確に答えを求めることができる。  |
| D児 | 問題文を読み、どんな計算をすればよいかを考えて立式するのに時間がかかる。筆算形式による繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算の計算はできる。 |
| E児 | たし算やひき算を適用する文章題で、立式し筆算で正しい答を求めることはできるが、やや時間がかかる。集中して計算の反復練習をするのが、やや苦手である。  |

本学年の児童は、上巻の「かんがえてみよう(1)」で、求めるものとわかっていることを問題文に線を引いてはっきりさせたり、ブロックや図を用いたりして、2つの数量の関係をとらえていくなかで、求大加法、求小減法や間接加法、間接減法を学習してきている。

本単元では、これまでの学習をうけて、加法や減法が用いられる場を拡張するために、問題の叙述の順を、逆にたどって答を求める計算を考える逆思考の問題(減法逆減法、減法逆加法、加法逆減法、求小逆減法、求大逆加法)を扱う。この逆思考の問題は、問題文の言葉だけから安易に演算決定をすることができず、立式に困難を伴うものが少なくない。そこで、文章題を解くときには、求める数とわかっている数をはっきりさせることが大切だということを再認識させ、問題場面がテープ図を使って表すことができることを理解させる。そして、テープ図を手がかりに問題の内容を明確にし、演算を決定し、立式して、問題解決ができるようになることがねらいである。また、テープ図は、問題を視覚的にとらえ、より豊かにイメージし、式を立てるのを簡単にさせてくれる。そして、テープ図は、第3学年以降の線分図、数直線図と段階的に発展していく図のスタートであり、数量関係をとらえるための、有効な図である。

そこで指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・具体物や半具体物を数図ブロックやテープ図に置き換えて操作する算数的活動をもとに、未知数は何であるのかをとらえながら演算決定し、式に表すことができるようにする。
  - ・加法・減法のどちらかで問題が解決できたら、逆の計算で検算させ、相互関係を意識してとらえることができるようにする。
  - ・テープ図をもとに、児童自身が問題をつくる学習活動を行い、加法や減法の用いられる場面についての理解を深めることができるようにする。
- また、本校の研修との関連性を図るにあたっては、次の点に留意したい。
- ・課題に対する理解度や学習進度に差はあるが、リーダーカードをもとに、自分達で学習ができるように適時助言する。
  - ・児童の実生活に即した事象を問題と関連づけて提示することで、児童が意欲的に問題に取り組めるようにする。
  - ・テープ図と式のつながりを発表し合い、それぞれの考え方のいい所を認めながら、より数量関係を把握しやすい方法へと方向付けができるようにする。

## 3 目標

- 加法と減法が用いられる場を拡充し、逆思考の問題が解決できる。
- 問題の要素を図に表して数量の関係をとらえ、式に表すことができる。
- 求大・求小の場面で、加法や減法を用いて問題が解決できる。

#### 4 評価規準

| 観 点          | 評 価 規 準                              |
|--------------|--------------------------------------|
| 算数への関心・意欲・態度 | ・数量の関係をテープ図に表すよさがわかり、進んで問題を解決しようとする。 |
| 数学的な考え方      | ・問題解決のためにテープ図を用いて数量の関係をつかみ、求め方を考える。  |
| 表現・処理        | ・テープ図から数量の関係を式に表し、問題を解くことができる。       |
| 知識・理解        | ・テープ図のよみ方や、テープ図を利用して問題を解く方法を理解する。    |

#### 5 指導計画及び評価 (総時数 6 時間)

|         | 学習活動・内容  | 評価の視点  | 教師の支援  |
|---------|--|--|--|
| 第一<br>次 | 1<br>○減法逆減法の問題の数量関係をテープ図によって把握し、問題を解決する。<br>・減法逆減法<br>$A - \boxed{C} = B \rightarrow \boxed{C} = A - B$  | (関)数量の関係をテープ図に表して、問題を解決する。<br>(考)問題をテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。<br>(表)テープ図の関係を式に表すことができる。              | ・問題文を読んで、分かっていることと、分かっていることに線を引かせたり、抜き出して書かせたりして、立式のための見通しをもつことができるようにする。(全児)              |
|         | 2<br>○減法逆加法の問題の数量関係をテープ図によって把握し、問題を解決する。<br>・減法逆加法<br>$\boxed{A} - C = B \rightarrow \boxed{A} = B + C$  | (考)問題をテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。<br>(表)テープ図の関係を式に表すことができる。<br>(知)関係表現は減法でも、求答の式は加法になることを理解する。         | ・絵やブロック、半具体物や具体物などを準備し、それらを操作しながら、立式したりテープ図をかいたりすることができるようにする。(A児・D児)                      |
|         | 3<br>○加法逆減法の問題の数量関係をテープ図によって把握し、問題を解決する。<br>・加法逆減法<br>$B + \boxed{C} = A \rightarrow \boxed{C} = A - B$<br>$\boxed{B} + C = A \rightarrow \boxed{B} = C - A$ | (考)問題をテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。<br>(表)テープ図の関係を式に表すことができる。<br>(知)関係表現は加法でも、求答の式は減法になることを理解する。         | ・前時の振り返りやテープ図をかく際のヒントとなるように、学習の足跡を掲示する。(D児)  |
|         | 4<br>○テープ図を使って加法と減法を用いる問題を解決し、加法と減法の関係をまとめる。<br>・加減の統合的見方  | (考)テープ図を手がかりに、加法・減法を統合的につかんむ。<br>(表)テープ図の関係を式に表すことができる。  | ・具体物を絵とし、その絵をマスに、そしてマスをすきまなくテープのようにはしていく活動をしたり、テープにマスの線を入れたりして、段階的にテープ図をかくことができるようにする。(D児) |
| 第二<br>次 | 5<br>○逆思考の求小減法の問題を、テープ図によって数量関係を把握し、解決する。<br>・求小逆減法  | (考)問題を2本のテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。<br>(表)2本のテープ図の関係を式に表すことができる。<br>(知)2つの数量のうち、小さい方を求める問題であることを理解する。 | ・テープ図をかく際には、( )や□に言葉や数値が記入できるようにしたワークシートを使うことができるようにする。(全児)                                |
|         | 6<br>○逆思考の求大加法の問題を、テープ図によって数量関係を把握し、解決する。<br>・求大逆加法  | (考)問題を2本のテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。<br>(表)2本のテープ図の関係を式に表すことができる。<br>(知)2つの数量のうち、大きい方を求める問題であることを理解する。 | ・伝え合いでは、立式や答え、テープ図が同じでも、ホワイトボードにかいて、全員に発表をする機会を設ける。(全児)                                    |

6 本時案 (第一次 1 / 6)

- (1) 主眼 減った数を求める逆思考の問題を、テープ図を使って解決することができる。  
 (2) 準備 カード、テープ図、ワークシート、ヒントカード、ブロック図、振り返りカード  
 (3) 学習過程

| 前時の学習 |   | 減法の減数が未知のとき、その減数を求めるのに減法を用いる問題を、テープ図を使って解決した。   |       |
|-------|---|---|-------|
| 調     | 学習活動・内容   | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L)  | 流れ    |
|       | 「あげた数」をもとめる方ほうを考えよう。  |   |       |
|       | <p>1 問題文を読み、数量関係をテープ図を使って表し、式を立てて、答えを求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減法逆減法の問題解決の見通し</li> <li>数量関係の把握とテープ図の作成</li> <li>テープ図からの立式・求答</li> </ul> | <p><b>L テープ図をかいて、問題を解きましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の問題は、「はじめの数」(被減数)が分からない問題であるということを問題文に赤線や青線を引いて、おさえることができるようにする。</li> <li>ブロック図に( )や□に言葉や数値が記入できるヒントカードやさし絵を載せたヒントカードを用意し、問題文の数的要素の関係をつかむことができるようにする。</li> <li>カードやブロックを並べることによって、問題場面を具体的にとらえさせ、分離量をテープに表す過程を理解できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 評価ア ワークシート)</p> | かんがえる |
|       | <p>2 テープ図を使って、自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テープ図と式のつながり</li> </ul>   | <p><b>L 自分の考えを発表しましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が考えたテープ図や式と答えをホワイトボードにかいて発表し合い、テープ図のよさに気づくことができるようにする。</li> <li>これまでの減法とは違うことを意識させ、テープ図を利用して、はじめの枚数から残りの枚数を除いたものが、あげた枚数になることをしっかりとらえさせることができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 評価ア 発表)</p>  | つなぎあう |
|       | <p>3 テープ図を用いて、減法逆減法の問題を解く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テープ図を用いた減法逆減法の計算</li> </ul> $A - \square = B - \square = A - B$                    | <p><b>L 練習問題を解きましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>A - \square = B - \square = A - B</math>の文章題は、テープ図を使うと、より速く正確に解決できるということを練習問題を解くことによって実感できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 評価イ ワークシート)</p>  | まとめる  |
|       | 「はじめの数」をもとめる方ほうを考えよう。   |   |       |
|       | <p>4 次時の学習の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次時の課題把握と見通し</li> </ul>   | <p><b>L 問題を読みましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を読み、解決への見通しを立てさせる。</li> </ul>  | つかむ   |
| 次時の学習 |   | 減法逆加法の問題を、テープ図を使って解くことができるようにする。  |       |

(4) 評価

- ア(考): 問題をテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。  
 イ(表): テープ図の関係を式に表すことができる。

6 本時案 (第一次 2 / 6)

- (1) 主眼 関係表現は減法の形でも、計算は加法を用いる問題を、テープ図を使って解決することができる。
- (2) 準備 テープ図、ワークシート、ヒントカード、ブロック図、振り返りカード
- (3) 学習過程

| 前時の学習 | 減法の減数が未知のとき、その減数を求めるのに減法を用いる問題を、テープ図を使って解決した。   |  |  |
|-------|---|--|--|
| 単     | 学習活動・内容   | 教師の働きかけ・リーダーの指示(L)   | 流れ   |
|       | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「はじめの数」をもとめる方ほうを考えよう。</p> <p>1 問題文を読み、数量関係をテープ図を使って表し、式を立てて、答えを求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減法逆加法の問題解決の見通し</li> <li>・数量関係の把握とテープ図の作成</li> <li>・テープ図からの立式・求答</li> </ul> <p>2 テープ図を使って、自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープ図と式のつながり</li> </ul> <p>3 テープ図を用いて、減法逆加法の問題を解く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープ図を用いた減法逆加法の計算</li> </ul> $\boxed{A} - C = B \rightarrow \boxed{A} = B + C$ <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「ふえた数」をもとめる方ほうを考えよう。</p> <p>4 次時の学習の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の課題把握と見通し</li> </ul> | <p><b>L テープ図をかいて、問題を解きましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の問題は、「はじめの数」(被減数)が分からない問題であるということを問題文に赤線や青線を引いて、おさえることができるようにする。</li> <li>・ブロック図に( )や□に言葉や数値が記入できるヒントカードやさし絵を載せたヒントカードを用意し、問題文の数的要素の関係をつかむことができるようにする。</li> <li>・問題場面を、文意にそってそのまま書くと<math>\square - 4 = 9</math>となるが、この□の値を求める式が<math>9 + 4</math>であることを、テープ図をかいて読み取ることができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 評価ア ワークシート)</p> <p><b>L 自分の考えを発表しましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が考えたテープ図や式と答えをホワイトボードにかいて発表し合い、テープ図のよさに気づくことができるようにする。</li> <li>・「かえた」のことばから<math>9 - 4</math>と立式した児童には、残りの人数の9人よりも、はじめの人数の方が少なくなることから、矛盾に気づかせ、テープ図を再度確認させるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 評価ア 発表)</p> <p><b>L 練習問題を解きましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\boxed{A} - C = B \rightarrow \boxed{A} = B + C</math>の文章題は、テープ図を使うと、より速く正確に解決できるということを練習問題を解くことによって実感できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 評価イ ワークシート)</p> <p><b>L 問題を読みましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文を読み、解決への見通しを立てさせる。</li> </ul> | <p>かんがえる</p> <p>/</p> <p>つながりあう</p> <p>/</p> <p>まとめる</p> <p>/</p> <p>つかむ</p> |
| 次時の学習 | 関係表現は加法の形でも、計算は減法を用いる問題を、テープ図を使って解決する。  |  |  |

(4) 評価

- ア(考): 問題をテープ図に表し、数量関係をつかんで考える。
- イ(表): テープ図の関係を式に表すことができる。

研究主題とのかかわり

一人ひとりの実態に応じて学習課題と補助教材を工夫することで自信をもって一人学びに取り組むことができるとともに、自分たちで作った問題を共有しながら解答について発表し合うことでつなぎ合いの基礎となる友だちの考えを意欲をもって聞くことができるようにする。

1 単元名 1年 ひきざん (本時8/10)

2 単元設定の理由

本学級の1年生(男子2名女子1名)は、一人ひとりが集中して静かに学習を進めることができる。課題に対して前向きに取り組むことができるが、個人差は大きい。また友だちの話の意味を考えながら聞く、自分の考えと比べながら聞くということは難しく、友だちの話や意見を真剣に聞くことができない。

子どもたちは、これまでにひき算については10までの数範囲で繰り下がりのない減法の学習をしている。

また、算数科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

|    |   |
|----|---|
| A児 | 課題に対して意欲的で、計算ミスをする 것도少なく、ほとんどの課題が概ね難なくできる。文章題についても、未学習の問題に対しても、自分で何度も問題を読み、解くことができる。自分の言葉で自分の考えを発表することがやや苦手である。   |
| B児 | 課題に対して淡々と取り組むことができる。算数については自信があり、計算ミスをする 것도滅多にない。飽きやすく集中力に欠けるが、相手を意識し、自分の考えを工夫して説明しようとする態度が見られる。  |
| C児 | 算数を苦手としている。手を使って10までのたしざんができるようになってきたが、ひきざんは手を使っても難しいことが多く、概念を理解しきれていない。学習内容を理解することに時間がかかり、わからないとパニックに似た行動をおこすことがある。教師が寄り添い、支援をしながら学習を行うとすぐに落ち着いて学習に取り組むことができる。書くことでの説明は困難であるが、理解できたら口頭での説明は分かりやすく行うこともできる。 |

本単元は、子どもたちがいろいろ工夫してよりよい方法で解こうとすることを重視している。半具体物を使った操作活動を繰り返すことで10のよさやかたまりを意識するようにし、最終的には繰り下がりの減法の計算ができることがねらいとしている。

そこで、指導に当たっては次の点に留意したい。

- ・半具体物(ブロック)を使っての操作活動を多く取り入れる。
- ・計算の仕方を半具体物や図を使って説明したり、何度も説明の基本文に当てはめて言う練習を繰り返したりして、繰り下がりの減法の計算ができるようにする。
- ・一人ひとりの実態に応じたプリントを工夫し、一人学びができるようにする。
- ・友だちに解いてもらうことを前提とした文章問題の作成をめざし、学習に意欲的に取り組むことができるようにする。

3 目標

- (十何) - (1位数) の減法で、繰り下がりのある計算の仕方を考え、計算できるようにする。

#### 4 評価基準

| 観点       | 評価規準   |
|----------|--|
| 関心・意欲・態度 | ・繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えようとしている。<br>・意欲的に「自分問題」の作成をしたり、友だちの問題を解こうとしたりしている。 |
| 数学的な考え方  | ・数構成に着目して、計算の仕方を考えている。   |
| 表現・処理    | ・(十何) - (1位数)【繰り下がりあり】の計算ができる。   |
| 知識・理解    | ・(十何) - (1位数)【繰り下がりあり】の計算の仕方を理解している。                                   |

#### 5 指導計画及び評価（総時数10時間）

|     |                   | 学習活動・内容  | 評価の観点                                       | 教師の支援  |
|-----|-------------------|--|---|--|
| 第一次 | 1                 | ○(十何) - (1位数)【繰り下がりあり】の計算方法を考える。                 | (関) 被減数を10といくつの数としてとらえ、計算する方法を考えている。        | ・ブロックを操作しながら説明させる。(A児・B児)<br>・黒板に分かりやすく計算の仕方をまとめ、ブロックの操作をていねいに一緒に行いながら確認をする。(C児) |
|     | 2                 | ○(十何) - (1位数)【繰り下がりあり】の計算をまとめる。                  | (知) 繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解している。                |  |
|     | 3                 | ○減加法に適した減法の計算練習をする。<br>(例：11-7)                  | (表) 減加法による繰り下がりのある減法の計算ができる。                | ・両方の方法で問題を解き、どちらに適しているか考えた上で他の問題を解くようにする。(A児・B児)<br>・得意な方の方法で解くように助言する。(C児)      |
|     | 4                 | ○減々法に適した減法の計算練習をする。<br>(例：13-4)                  | (表) 減々法による繰り下がりのある減法の計算ができる。                |  |
|     | 5                 | ○どちらの方法にも適した減法の計算練習をする。<br>(例：14-7)              | (考) 自分で判断し、自分に合った方法で減法の計算を考えている。            |  |
| 第二次 | 6<br>7<br>8<br>本時 | ○繰り下がりのある計算の習熟を図る。<br>・計算カード<br>・問題作り<br>・学習プリント | (関) 文章問題を意欲的に作ろうとしたり、友だちの問題を意欲をもって解こうとしている。 | ・一人ひとりの実態に応じた学習プリントにより、問題を作ったり、友だちの問題を解いたりすることができるようにする。(全員)                     |
| 第三次 | 9<br>10           | ○学習のまとめをする。<br>(「たしかめよう」「とりくんでみよう」等)             | (表・知) 繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解し、計算することができる。      | ・前時までの学習を振り返りながら、自分たちで繰り上がりのある減法をまとめることができるように学習プリントを工夫する。(全員)                   |

## 研究主題とのかかわり

前時の学習結果や学習プリント、お助けカード等を活用しながら、じっくりと時間をかけて考え、自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。自分の言葉で説明し、その説明を聞いて友だちに立式してもらうことで考えをつなぎ合う活動に話し手と聞き手として意欲的に参加できるようにする。

### 1 単元名 2年 九九のひょう (本時8/10)

#### 2 単元設定の理由

本学級の2年生(男子3名女子1名)は、現在九九の練習に全員が前向きに取り組んでおり、競い合いながら練習に励んでいる。快活に活動ができる子どもたちであるが、個人差は大きく、一つの考え方に固執し、柔軟な考え方をすることに困難が感じられることも多い。

これまでの学習で、かけざんの意味がわかり、かけ算九九の練習を繰り返し、正しく唱えられるようになりつつある。また、倍の意味を理解し、何倍の大きさを式で表すことができるように練習を積み重ねている。

また、算数科の学習に対しては、一人ひとりの状況は以下の通りである。

|    |  |
|----|--|
| A児 | 学習に対して前向きに取り組む、真面目である。自分の考えや思いもていねいに発表しようとする態度が見られ、友だちの発表にも一生懸命に耳を傾けることができる。柔軟さにややかけ、臨機応変に対応できないことがある。 |
| B児 | 非常に前向きに学習に取り組む。算数を得意に思っており、発表も積極的に行う態度が見られる。多様な見方をすることが難しい傾向にある。                                       |
| C児 | 問題の意味を理解することに時間がかかる。決まった文章問題や計算問題は解くことができる。自分の考えや思いを言葉で説明することが難しく、沈黙してしまうことも多い。                        |
| D児 | 学習に前向きに取り組むが、理解に時間がかかる。特に、読解に時間がかかるが、理解した後は定着がよく、こつこつと問題を解くことができる。                                     |

本単元は、かけ算九九の習熟を図るとともに、「乗法に関して成り立つ性質」の理解を一層深め、数の見方を豊かにすることをねらいとしている。かけ算九九の表を作ることを通して、九九の表の答えの並び方に興味をもたせ、それを調べることにより乗数と積の関係に気付かせる。また、交換性やほかのいろいろなきまりを見つけながら、九九表のもつ面白さを十分に感じさせ、習熟を図るのに適している。

そこで、指導に当たっては次の点に留意したい。

- ・かけ算九九の表を作る時に、観点のヒントを与えながらいろいろな規則性に気付かせるようにする。
- ・工夫して九九を用いる問題場面を考えることにより、九九のよさに気付くことができるようにする。
- ・一人学びの時間を保障することで自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。そのため、前時の学習プリントやお助けカードなどを用意する。
- ・自分の考えを聞き手にわかってもらえるように工夫して説明するように発表用の図を用意して支援するとともに、聞き手に分かってもらえる説明ができたかどうかを聞き手に立式させることで確認できるようにする。

#### 3 目標

- かけ算九九の表の考察を通して、かけ算に関して成り立つ性質(乗数と積の増え方の規則性、乗法の交換性など)がわかる。
- 数の乗法的な構成がわかり、多様な数の見方ができる。



#### 4 評価基準

| 観点       | 評価規準  |
|----------|---|
| 関心・意欲・態度 | ・かけ算九九の表のよさや面白さに気づき、つくったり、調べたりしようとしている。                       |
| 数学的な考え方  | ・かけ算九九の表を考察し、乗数と積との関係や乗法の交換性などについて考えている。                      |
| 表現・処理    | ・かけ算九九の表から、いろいろな特徴を見つけることができる。<br>・自分の考えた方法を分かりやすく表現することができる。 |
| 知識・理解    | ・かけ算に関して成り立つ性質（乗数と積の増え方の規則性、乗法の交換性など）を理解している。                 |

#### 5 指導計画及び評価（総時数10時間）

|     | 学習活動・内容   | 評価の観点  | 教師の支援   |
|-----|---|--|---|
| 第一次 | 1 ○かけ算九九の表を作る。  | (関) かけ算九九の表に関心を持ち、つくったり、調べたりしようとしている。  | ・「かけられる数」「かける数」を意識しながら、声に出して唱え、十分につかむことができるようにする。(C児D児)                           |
|     | 2 ○かけ算九九の表を考察する。(同じ答えのかけ算の並びなど)   | (考) かけ算九九の表の答えの並び方に潜む規則性を考えている。  | ・着眼点を示し、九九の表にある規則性を見つけ出せるようにする。(全員)   |
|     | 3 ○乗数と積の関係を考える。(かける数が1増えると答えはかけられる数だけ増える。)  | (考) かけ算九九の表を考察し、乗数と積との関係について考えている。<br>(知) 乗法に関して成り立つ性質(乗数と積の増え方の規則性)を理解している。 | ・前時の学習を振り返りながら、自分で見つけることができるように促す。(全員)<br>・一つの段だけではなく、他の段についても規則性が通用するか確認させる。(全員) |
| 第二次 | 4 ○乗法の交換性について考える。   | (考) 乗法の交換性について考えている。<br>(知) 乗法に関して成り立つ性質(交換性)を理解している。                        | ・発表の場では話し手の説明を聞いて、聞き手に立式をさせる。(全員)<br>・九九表から考えさせる。(A児・B児)                          |
|     | 5 ○様々な観点で数を表す。<br>6 $\left[ \begin{array}{l} \text{いすの数} \\ \text{おはじきの数} \end{array} \right]$                  | (考) 1つの数が、観点を変わるといろいろな九九で表せることに気づいている。                                       | ・もとにする数を何にするかというお助けカードを用意する。(全員)  |
|     | 7 ○ものの数を乗法を使って<br>8 多様な方法で考える。<br>本時 $\left[ \begin{array}{l} \text{トマトの数} \\ \text{おかしの数} \end{array} \right]$ | (考) ものの数を乗法を用いて多様な方法で考えている。  | ・考えを図と式で書けるプリントを用意する。(全員)   |
| 第三次 | 9 ○学習をまとめる。<br>10 (「たしかめよう」「ふりかえろう」「とりくんでみよう」等)   | (知) 多様な数の見方ができ、乗法の性質を理解している。   | ・前時までの学習を振り返りさせながら学習をまとめさせる。(全員)  |

6 本時案 (第二次 8 / 10)

(1) 主眼 繰り下がりのあるひき算の習熟を図ることができる。

(2) 準備 学習プリント、ブロック、計算カード、発表ボード

(3) 学習過程

|       |   |  |
|-------|---|--|
| 前時の学習 | ひきざんのれんしゅうをしよう。   |  |
| 流れ    | 教師の働きかけ・リーダーの指示 (L)   | 学習活動・内容  |
| つかむ   | ひきざんのぶんしょうもんだいをつくろう。  |  |
| ／     | <b>L</b> 課題を読みましょう。   | 1 本時の課題を確認する。  |
| かんがえる | <b>L</b> ひき算の文章問題を作りましょう。<br>・ ブロックを使ったり、説明を文章で書いて自分の解答が合っているか確認するように声をかける。<br>・ 早く終わった児童については2問目、3問目を考えさせる。                | 2 ひき算の文章問題を作る。<br>・ 問題文<br>・ 立式、答え、説明                            |
| ／     | <b>L</b> 発表しましょう。<br>・ 発表するときにはボードを見せながら、ゆっくり2度問題を繰り返すように助言する。<br>・ 発表者は友だちの作業を確認して、困っている友だちに手助けを行うようにする。<br><br>(評価ア・イ 発表) | 3 友だちの作った問題を解く。<br>・ 立式、答え<br>・ 答えの出し方の説明<br>・ わかりやすい問題かどうかを考える。 |
| ／     | <b>L</b> たしひきしりとりをしましょう。プリントをやりましょう。  | 4 繰り下がりのあるひき算の練習をする。<br>(繰り上がりのないたし算・繰り下がりのないひき算・繰り下がりのないひき算)    |
| まとめる  | <b>L</b> 学習を振り返りましょう。   | 5 学習を振り返り、自分の頑張りを友だちに紹介する。                                       |
| 次時の学習 | ひきざんのまとめをしよう。   |  |

(4) 評価

ア (関心・意欲) 意欲をもって友だちの問題を解いたり、説明したりしていたか。

イ (知識・理解) 繰り下がりのあるひき算の仕方を理解しているか。

6 本時案 (第二次 8 / 10)

- (1) 主眼 ものの数を乗法を用いて多様な方法で考えることができる。
- (2) 準備 学習プリント、振り返りカード、九九表、おかし絵
- (3) 学習過程

|       |   |  |            |
|-------|---|--|------------|
| 前時の学習 | トマトの数を工夫して求めよう。   |  |            |
|       | 学習活動・内容   | 教師の働きかけ・リーダーの指示 (L)  | 流れ         |
|       | 1 本時の課題を確認する。<br>・本時の課題把握<br>・前時の振り返り                             | <b>L 課題をよみましょう。課題を書きましょう。</b>  |            |
|       | おかしの数をかけ算をつかってもとめよう。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題を確認することで、本時の学習の見通しを持たせる。</li> <li>・ 前時のトマトの数の求め方を思い出させ、工夫して求めるための観点を思い起こさせる。</li> </ul>                         | つかむ        |
|       | 2 おかしの絵に線を引いたり、おかしを動かしたりしながらおかしの数乗法を用いて考える。                       | <b>L 時間まで考えましょう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お助けカードを用意する。<br/>(前回のトマトの数の求め方など)</li> <li>・ 早くできた児童には他の考え方で考えさせる。<br/>(評価ア 学習プリント)</li> </ul> | /<br>かんがえる |
|       | 3 おかしの数の求め方について発表し合い、立式して数を求める。<br>・おかしの数求め方 (話し手)<br>・式、答え (聞き手) | <b>L 考えたことを発表しましょう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 線を引ける絵を用意する。</li> <li>・ 話し手は聞き手が立式している様子を見て回り、分からなかった人に助言を行う。<br/>(評価ア・イ 発表)</li> </ul>     | /<br>つなぎあう |
|       | 4 学習を振り返る。  | <b>L 学習を振り返りましょう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りカード</li> </ul>  | /<br>まとめる  |
| 次時の学習 | 九九の表のまとめをしよう。   |  |            |

(4) 評価

- ア (関心・意欲) 工夫しておかしの数を求めようとしている。
- イ (数学的な考え方) 乗法を用いて多様な方法で考えている。